

第33期 第6回 小田原市図書館協議会 概要

- 1 日時 令和元年11月25日(月) 15時から17時頃まで
- 2 場所 小田原市立かもめ図書館2階 研修室
- 3 出席者 野口委員長、大塚副委員長、馬見塚委員、石井委員、北河委員、佐々木委員、池田委員、遠藤文化部副部長、古矢図書館長、一寸木副館長、内田副館長、服部サービス係長、遠藤サービス係長
- 4 傍聴者 1人(別紙傍聴者名簿のとおり)
- 5 次第
 - (1) 文化部副部長あいさつ
 - (2) 副委員長の選出
 - (3) 報告事項
 - ア 図書館行事の結果について(9月～11月上旬) 【資料1】
 - イ 図書館行事の予定について(12月～3月) 【資料2】
 - ウ 「利用者の声」について 【資料3】
 - エ 市議会9月定例会報告について 【資料4】
 - オ 市立図書館閉館記念事業について 【資料5】
 - カ 利用者カード更新に伴うデザイン募集について 【資料6】
 - キ 小田原駅東口図書館整備等に係る進捗状況について 【資料7】
 - (4) その他
- 6 概要

遠藤副部長の挨拶後、野口委員長の進行で副委員長に大塚委員を選出後に議事に入った。
報告事項(ア～エ)については、事務局からの説明を省略し、一括して質疑を行った。

(3) 報告事項

- ア 図書館行事の結果について(9月～11月上旬) 【資料1】
- イ 図書館行事の予定について(12月～3月) 【資料2】
- ウ 「利用者の声」について 【資料3】
- エ 市議会9月定例会報告について 【資料4】

佐々木委員 9月定例会報告で角田議員の質問に「新しい博物館を中心とした収蔵体制を整えたい」という答弁をしているが、博物館の整備に関する長期的な構想や計画などがあれば伺いたい。

図書館長 博物館については長期的な課題として取り組んでいるが、博物館基本構想を策定しており、小田原城と離れていない立地を考えたいということで適地を決めるところまで至っていない。公共施設の大きな再編を進めているところで様々な問題が複合的に絡んでおり、市全体の課題として検討しているところである。

- 佐々木委員 博物館基本構想はいつ頃に策定されたのか。
- 図書館長 博物館基本構想は平成28年度に策定したものである。郷土文化館は市立図書館よりも古い建物であるため、現状のままにしておくことはできない。博物館整備という考え方はあるが具体的な話に至らない状況である。
- 北河委員 角田議員の質問に「文化財などの資料の収蔵庫が久野、酒匂、小船、小峰にある」と答弁しているが、収蔵庫はどこにあるのか。
- 図書館長 久野は小田原厚木道路の高架下に設置した倉庫に収蔵しており、酒匂は酒匂市民窓口コーナー集会施設の敷地内などに収蔵している。この他、商工会議所に隣接した衛生会館や公共施設の空スペースを活用している。
- 野口委員長 「第4回小田原市図書館を使った調べる学習コンクール」の受賞者等の結果を伺いたい。
- 図書館長 今年の図書館を使った調べる学習コンクールの市長賞は小学校1年生の「ぼくはカニはかせ」という作品である。教育長賞は小学校5年生の積雪地域と沖縄の家の屋根を比べたりしている。「地いきによってちがう日本の屋根」という作品であり、市長賞と教育長賞の上位2作品は全国コンクールに推薦するものである。なお、図書館長賞は「セミのふしぎを発見」という小学校3年生の作品である。
- この他、奨励賞3作品、佳作3作品を選出するとともに、学校賞を受賞された富水小学校からは42作品を応募してもらった。年々、応募作品の内容が充実し、レベルが高くなっていると感じている。
- 野口委員長 図書館長の説明のとおり年々、作品がレベルアップしており、審査する側としても作品の優劣を付け難い状況である。来年度もコンクールの応募作品を見ることが楽しみである。
- 一寸木副館長 後ほど、図書館を使った調べる学習コンクールの入選作品一覧を配布させていただきたい。

オ 市立図書館閉館記念事業について 【資料5】

事務局から資料5に基づき「市立図書館閉館記念事業について」に関する説明を行った後、質疑等を行った。

- 池田委員 小田原の郷土史、近代史、現代史などを勉強されている人にとって図書館で発行している冊子等は内容のすばらしいものがある。例えば、図書館で収蔵されている資料はリクエストして書庫から出して閲覧すると分かると思うが、図書館で発行している冊子等のリストも閉館記念誌に掲載されるのか。

また、図書館が協力して作成したビデオについても紹介される頁があると注目して見ることができる。個人的に小田原のまちなかの大衆文化に興味があるが、映画館や劇場のまとまった資料はほとんど残されていない。歴代の図書館長の中には研

究者の方もいられるが図書館長が残された文献を見ることができればありがたい。
服部サービス係長 特別集書などの資料の紹介も行う予定である、池田委員のご意見も反映するように工夫してまいりたい。

図書館長 昔は図書館で出版事業にも取り組んでいた。「小田原市立図書館刊」の出版物もあり、今も販売や必要に応じて配布している。星崎記念館を通じて取り組んできたことであるので記録に残すとともに、昭和中期あたりにはスライドなどの映像資料も数多く残しているの、そうした功績にも光を充てられるようにしたい。

馬見塚委員 閉館記念誌は600部を作成するとあるが、どのように頒布されるのか。

服部サービス係長 閉館記念誌は閉館式典への参加者に100部、記念誌への原稿寄稿者に50部、公共図書館、博物館等に150部、市内の学校に50部、残りの記念誌は希望される市民の方に頒布したいと考えている。

大塚副委員長 閉館記念講演会の参加募集の時期と定員を伺いたい。

服部サービス係長 「広報おだわら」2月号でお知らせしてから募集を開始する予定である。定員は50人程度を予定している。

図書館長 「広報おだわら」2月号では、市立図書館の閉館日や閉館後の図書の返却など、閉館に伴うさまざまなお知らせを行う予定である。

野口委員長 4月4日開催の閉館記念イベントも事前申込制か。

服部サービス係 閉館記念イベントは定員などなく、自由参加で開催したい。

野口委員長 施設見学では普段見ることができないバックヤードの書庫なども見られると思うので貴重な機会である。大人だけでなく、子どもたちにも見学してもらい、記憶に留めてもらいたいと思う。4月4日は春休み期間だと思うので学校を通じて周知を図ってほしい。

図書館長 4月4日は桜の開花時期と重なり、例年、城址公園ではさまざまなイベントが開催されるので多くの人に施設見学に参加してもらえるようにしたい。

大塚副委員長 図書館協議会で市立図書館を見学した際に忍者関係の資料もあってワクワクした気持ちになったことを覚えている。自由参加であれば周知して閉館イベントを良いものにしてもらいたい。

図書館長 閉館記念講演会に参加いただければ市立図書館のバックヤードをご案内させていただきますと思う。また、市立図書館には「騎士団長殺し」のモチーフになっているのではないかと話題になった画家の井上三綱氏の絵画もあるので、そうしたものも改めて紹介してまいりたい。

カ 利用者カード更新に伴うデザイン募集について 【資料6】

事務局から資料6に基づき「利用者カード更新に伴うデザイン募集について」に関する説明を行った後、質疑等を行った。

馬見塚委員 「利用者カードのデザインの絞り込みについての意見を図書館協議会で伺う」とのことであるが、もう少し説明をお願いしたい。

遠藤サービス係長 事務局でデザインを絞り込んだ上で図書館協議会の委員の皆さんの意見を伺いたいと考えている。

馬見塚委員 以前に子どもの写生大会を担当したことがあるが、美術協会から権威のある審査員を推薦してもらって審査いただいた経験がある。デザインに知見のない人たちが選ぶとなると市民の方々の納得が得られるのかが懸念される。

図書館長 利用者カードのデザインは絵画の優劣の付け方と異なると考えている。行政の目的や意図に沿っているかという視点と一般の人が好感を抱くかどうか、今回は利用者の目線に近いという観点でデザインを選ばせていただきたい。最終的には子どもたちにデザインを選んでもらうことにしている。

馬見塚委員 デザインを3つ、4つに絞り込んだ後に最終的に小学生に選んでもらうとなると小学生の目線になることが危惧される。

図書館長 他市でデザインの人気投票を行って1位の作品を選ばなかったことがあった。本市では単なる絵の優劣でなく、最終的にどのデザインが選ばれても大人も使用するデザインとしてふさわしいと思われるところまで絞り込みたいと考えている。

池田委員 子どもたちからさまざまなデザイン案が出されると思うが、利用者カードのデザインにするにはデザイン処理が必要であると思う。最終審査では製品化に近い利用者カードを見せて子どもたちに選ばせるという理解でよいか。

図書館長 詳細は固めてないが、図書館の表示も含めて考えていきたいのでカード化できるかという点が重要なポイントになる。デザイン力の高い職員もいるのでデザイン処理したものを投票してもらうことになると思う。

池田委員 利用者カード全体のデザイン計画の中で、どのデザイン案が選ばれてもよいというレベルに落とし込んでから子どもたちに投票してもらうことと理解した。

図書館長 原画の優劣を競うということではなく、どのカードがよいかということを選んでもらうことになる。

野口委員長 高校生も応募できるとレベルの高い作品が寄せられることが期待できる。子どもの読書の推進という観点が思いとして込められていることが良い着想である。

池田委員 高校生が取り組む目標としては相当価値があるものと思う。採用された高校生にとっては大変栄誉なことである。

北河委員 新しいカードは薄い磁気のような形状に変わるのか。

遠藤サービス係長 カードの形状は変更しない予定である。

野口委員長 最終審査の市内小学校の小学生による投票はどのように行うのか。

図書館長 今後、教育委員会と相談するが、例えば、クラス単位で1票とするか、学校単位で1票とするかなど、各世代の子どもたちに参加してもらいたいと考えているが、

学校の意見を聞きながら柔軟に対応してまいりたい。

佐々木委員 記念品の対象者は最終的に絞り込まれた3、4人の応募者となるのか。

図書館長 最優秀の応募者だけに図書券を贈りたいと考えているが、他の方には記念になるものを検討したい。

野口委員長 最終的に絞込んだ3、4人は入選者になると思う。採用者ではないが、表彰式に参加してもらったほうがよいと思うので検討いただきたい。

大塚副委員長 学校で新しい利用者カードのデザインが話題になることが大切である。東口図書館の開館が話題になることで児童、生徒が東口図書館に来館する契機になると思う。学校の先生方には子どもたちに楽しそうにデザイン募集の話をしていただきたいと思う。

石井委員 私も良いアイデアだと思う。オリンピックのキャラクターを全国の小学生に投票してもらおう取組がされた。オリンピックが小学生にとって身近なものになる。東口図書館は小田原のまちづくりの起爆剤になり得る施設であり、小学生がまちづくりに参画するという感覚を持てるのではないかと思う。利用者カードのデザインを投票するというだけでなく、子どもたちにはまちづくりということを含めて投げかけたい。

馬見塚委員 デザインを募集するにあたってはコンセプトが重要になると思う。例えば、小学生が選ぶので小学生が喜ぶデザインを考えようとか、まちづくりのための図書館であるといったコンセプトが示されるとイメージしやすいと思う。

図書館長 今のところ、小田原、図書館、読書といった条件で考えてもらうという案が出ている。詳細は学校の先生方のご意見も聞きながら考えていきたい。

野口委員長 小学生が選ぶにしても利用者カードは全年齢層が利用するものである。全年齢を意識した3、4案を絞り込み、その上で小学生の目線で選んでもらうことになると思う。また、小学生、中学生には教育委員会を通じてデザイン募集を呼び掛けられると思うが、高校には図書館から直接呼びかけることになるのか。

図書館長 市内の高校には募集チラシを直接送付することになる。市外の高校に通学する高校生も対象になるので広報やホームページに掲載して募集することになる。

大塚副委員長 小田原映画祭では数年前からパンフレットの表紙を高校生が決めている。毎年、高校生ならではの着眼点と感性で決めていただいている。お財布の中でカードを見るときにデザイン性の高いものよりもシンプルなカードに目が行くということもある。

野口委員長 高校生にも広く募集を呼び掛けるのであればUMECOなどにポスターを掲示しておくと思う。高校生にはプラスアルファの工夫をして呼び掛けてもらえればと思う。

キ 小田原駅東口図書館整備等に係る進捗状況について 【資料7】

事務局から資料7に基づき「小田原駅東口図書館整備等に係る進捗状況について」に関する説明を行った後、質疑等を行った。

池田委員 選定事業者の「ゆうりん・おだたんグループ」であるが、どちらが主体となってグループが構成されたのか。また、㈱有隣堂は業態を広げてさまざまなことに取り組んでいるが、他市の公立図書館での指定管理の実績と、プレゼンテーション時に学校法人三幸学園小田原短期大学がおだびよ子育て支援センターの運営に関して主張された内容を伺いたい。

図書館長 ㈱有隣堂が代表企業となっているが、どちらから声を掛けたかということは承知していない。㈱有隣堂は神奈川県内で最初に指定管理を導入した綾瀬市や横浜市の山内図書館の指定管理を担っている。東京都内でも指定管理を請け負っていることを把握している。また、小田原短期大学は、現在、マロニエの子育て支援センターの業務委託を受けているが、今回のプレゼンテーションで「ゆうりん・おだたんグループ」は連携面を双方でよく検討されていた。小田原短期大学の学生が図書館に関わるなど、産学連携を押し出すとともに、両者とも地域に根付いた事業者であることなども評価されたものである。

佐々木委員 三島市の生涯学習センターには、子育て支援センターと図書館が別々の階に設置されていたが、子育て支援センターは、乳幼児とその親御さんが利用する施設で、健康・安全面での細かい配慮が必要と見受けられた。今回、JVを組んだ指定管理者の統括管理者のもと二つの施設が運営されるが、子育て支援センターの業務にウエイトがかかることが懸念される。二つの業務のバランスに偏りのないよう運営をお願いしたい。新しいビルがスタートする時はエレベーターや電気系統の故障などが起こりやすい状況もある。選定事業者に対する図書館と子育て政策課のバックアップも必要となるので連携が重要である。

図書館長 東口図書館、おだびよ子育て支援センターのそれぞれを運営する事業者と、図書館、子育て政策課の4者の連携が必要となるので協定締結に向けた協議の中で体制強化についてもしっかりと話し合ってもらいたい。

北河委員 小田原駅東口図書館に興味がある人が多いように感じている。先日も東口図書館で働いてみたいという司書の方がいたが、職員の募集は事業者が行うのか。

図書館長 ㈱有隣堂（ゆうりん・おだたんグループ）が事業者となった場合は、地域からの雇用ということを提案されているので小田原市での募集もあると思う。働き場所としても関心を高めてもらえると思っている。夜間も開館しているのでシフト勤務で短時間勤務も可能かもしれない。また、雇用の時期については、来年6月から準備業務が始まり、10月に開館を予定しているので段階をおって必要な人数を雇用されるものと思う。

大塚副委員長 現在、学校図書館司書は市の直営となっているが、以前、㈱有隣堂が学校図書館司書を担っていた時に司書が学校の先生と直接話してはいけないとか、学校から㈱有隣堂に質問を投げかけても回答がないなどの問題があり、学校図書館ボランティア団体から教育委員会に度々お話をしたことがある。東口図書館の指定管理を担うところで連絡や連携といった面が懸念される。

図書館長 連絡、指示や指導といった体制は重要である。学校図書館司書の導入時は情報交換の場をつくるのが難しかったことを聞いている。図書館は現場の責任者が解決できる問題の範囲も大きいので学校図書館と同じような状況が起こることは少ないと思うが、教訓を踏まえ、しっかりと対応してまいりたい。

池田委員 指定管理者の運営が始まると、図書館で働いている方々の意見や感想がネット上に出てくる。東口図書館は小田原のシンボルになり得るので、生き生きと働ける環境を維持できるようしっかりとモニタリングしてもらいたい。東口図書館への来館者や働いている人たちから小田原の文化度が広がっていくところがあるので行政の管理の目がより重要になってくる。

野口委員長 行政として指定管理事業の評価の手法が重要である。図書館協議会で担うのか、別の委員会を設置するのか、いずれにしても第三者の視点で評価する仕組みづくりが重要となるので検討いただきたい。

図書館長 今回、最初の指定管理期間を約5年と長めに設置したが、1、2年のうちに評価の体制をしっかりと整えたい。開館当初に来館者が多いことは当然であるが、来館者数だけでは評価できないところもあるので来館者の声をどのように聞いていくのかということも視点として含めて、体制を整えてまいりたい。

佐々木委員 小田原市の図書館は直営と指定管理者の2つの運営形態が存在するが、全国的に同様な事例はあるのか。

図書館長 横浜市は1館だけ指定管理となっており、さいたま市でも大宮図書館だけが指定管理を導入している。小田原市は他都市以上に地域資料を図書館の特性として打ち出したいことと、図書館政策自体を丸ごと委ねることにはまだ議論が必要であると考えている。しばらくは直営と指定管理の異なる体制で進めながら分館等の問題も含め、次の段階に入っていく中で議論を進めたいと考えている。

佐々木委員 市民の視点からは、今後、運営形態の異なる2つの図書館を利用できることから、それぞれの制度のメリット・デメリットが比較できるように思う。

野口委員長 中央図書館は直営で担い、分館は指定管理という導入事例は意外と多い気がする。他市でも、図書館行政そのものは直営で担いつつ、身近な拠点のサービスは指定管理者にお願いするというスタイルが見られる。

(4) その他

佐々木委員 10月の台風19号により東京都市大学の図書館の蔵書が数万冊も水に浸かったとの報道があったが、かもめ図書館は浸水被害がなかったか。また、ハザードマップを見ると、かもめ図書館は浸水想定区域になっているので、今後の防災対策を伺いたい。

図書館長 今回は前日までに休館を決定したことは大きいことであった。今後、鉄道の計画運休や広域避難所が開設される場合は図書館を休館するなどのルールを決めておくことも必要なことと感じた。川崎市市民ミュージアムの収蔵品の浸水被害も問題となったが、今回、かもめ図書館は大丈夫だったが、今後、貴重資料を市立図書館から持ってくるので配置場所をしっかりと考えていきたい。

野口委員長 基本的には2階に配架する予定か。

図書館長 最も貴重なものは2階に配架したいと考えている。1階の集中書庫に置くものは一番下の段には置かないなどの対応が必要と考えている。

野口委員長 東口図書館の運営は指定管理者に任せることになるが、臨時休館や災害に備えた判断は市が指示する形態になるのか。

図書館長 今後の協議にもよるが、基本的には、中央館であるかもめ図書館の指示で行うことと考えている。

この他、野口委員長から「子どもの読書活動推進に関する代表者シンポジウム」の開催(12月21日)についての案内をしていただいた。

また、事務局から「第4回小田原市図書館を使った調べる学習コンクール」の入選者名簿を配布した。

次回の第7回図書館協議会は、令和2年3月6日(金)午後2時から、かもめ図書館で開催することとした。